

リスク共生社会の課題

2024年3月27日

NPO法人リスク共生社会推進センター 理事長
横浜国立大学 IMS リスク共生社会創造センター 客員教授
野口 和彦

0

リスク共生とは

- 多様なリスクの存在する社会におけるマネジメントの仕組み
 - 目的達成のための受容するリスクの選択手法
- リスク共生を考える前提となる社会・リスクの捉え方
 - 異なる価値観・立場の集合体である社会
 - 多様な影響をもたらす多様なリスクの存在・連携
 - 限られたリソースによるマネジメント
- リスク共生社会実現のために解決すべき課題
 - 検討すべきリスクの体系化
 - 個々のリスクの捉え方
 - リスク間の連携
 - 多様なリスクやその連携の分析のあり方
 - 複数の価値観によるリスク評価・対応のあり方
 - 社会におけるリスクの共有方法(リスクコミュニケーション)

変化するリスクの捉え方と対応の課題

- リスクが大きく変化 新たな対応の検討が必要
- **これまでの工学リスクと捉え方が異なるDX, AIリスク**
 - 新たなインフラとしてのサーバーシステム
 - 多くのインフラ、産業、生活システムの基盤に
 - 訓練されていない一般人が運用する先端技術リスク
 - 視点によって異なるリスクの捉え方
 - 影響が発生するまでの時間差の存在
 - 経験の無い影響をもたらす可能性
- **地球温暖化、巨大災害のリスク**
 - 起きたら被害は大きい、起きることの切迫性が感じられないリスク
 - 対応の方法・効果・実効性、優先順位の問題
 - 社会の変化によって、新たな影響の出現
 - 少子高齢社会、DX等の他の施策との連携が重要なリスク
- **社会構造の変化をもたらす新たなリスク**

4

リスク共生学の挑戦

- 社会のリスクの体系化
 - 新たなリスクの特定
 - リスク間の連携の整理
 - 新たなリスクに必要な分析手法の開発
 - 多様な価値観に基づくリスク基準の設定
 - 異なる影響の総合評価手法の開発
- 社会リスクの対応検討の仕組みの構築
 - 多様な価値観に基づくリスクの総合評価の仕組みの構築
 - 社会リスクコミュニケーションの仕組みの構築
 - 社会目的に沿ったリスク対応の選択・優先順位の検討の仕組みの構築



- **将来の可能性を総合的に考えたマネジメントの実現**

5